参考資料2 黄色セル:変更箇所

			見直し来									現状						
	領域	カテゴリ	No	必須選択	地域 評価項目 枠	新評価指標(案)	配点 新評価基準(案)	領域	カテゴリ	No	必須選択	地域解析	価項目	旧評価指標(案)	日評価基準(案)			
		土地・地域特性	L-1	必須	- 自然環境・歴史文 化の把握・反映	土地の成り立ちを把握し、それを反映している計画か。	_ 土地及び周辺地域の成り立ち(地形や歴史)を把握した上で、整備計画及び維持管理・運営計画等に反映している。			37	必須		D目的・目標 )明確化	事業の目的・目標が明確となっている計画か。	- 事業の目的が明確であり、具体的な目標が設定されている。			
	土地・地域特性の	工地: 地域特性	L-2	必須	_ 社会的状況の把 握・反映	土地及び周辺地域の社会的状況を把握し、それを反映 している計画か。	土地及び周辺地域の社会的状況(人口、施設、交通、防災・減災、土地利用状況、開発状況、循環経済等)及び 地域特有の社会課題などについて、資料や調査等を基に把握した上で、整備計画及び維持管理・運営計画等計画 に反映している。			38	必須				- 目的・目標に対して、その内容を踏まえ適切な整備・維持管理等の実施計画が作成されている。			
	把握∙反映	行政計画	L-3	必須	_ 行政計画の把握・ 反映	関連する行政計画等を踏まえた計画か。			適切な事業の実	39	必須	- 実施体	制の明確化	実施体制及び責任者が明確である計画か。	- 実施体制及び責任者が明確である。			
		課題設定	L-4	必須	- 適切な課題の設定	土地・地域における課題と整合する項目が選択されている計画か。	- 当該土地・地域特性を踏まえた課題が設定され、これらの課題と整合性を持つ項目が選択されている。	マナニ ハコーギ ざ	) PE	40	必須	- 専門	家の関与	緑地の専門家や技術者が関与している計画か。	以下の総地の専門家・技術者の関与がある。 - 計画作成の段階から、緑地に関する資格を有する専門家による定期的な助言等を受けている。 - 緑地の整備や維持管理において、資格を有する遠園技術者が適正に確保されている体制となっている。			
			M-1	必須	- 事業の目的・目標 の明確化	事業の目的・目標が明確となっている計画か。	- 事業の目的が明確であり、具体的な目標が設定されている。	- マネジメント・ガバ ナンス		41	必須	- 資金	金の確保	整備・維持管理等に必要な資金を確保する仕組みがある計画か。	- 緑地の整備・維持管理費とその資金の調達方法が適切に考慮されている。			
~		目標設定・モニタ	M-2	必須	画の作成	目的・目標を踏まえた適切な整備・維持管理等の実施計画がある計画か。	- 目的・目標に対して、その内容を踏まえ適切な整備・維持管理等の実施計画が作成されている。			42	必須	_ E=\$	リングの実 施	モニタリングを適切に実施し、その結果を維持管理に反映する計画か。	設定する定量目標と、緑地の効果の持続可能性を担保するためのその他の取組に対する、モニタリングの 体的な内容・方法・頻度・体制等が示されている。			
1			M-3	必須	_ モニタリングの実 施	モニタリングを適切に実施し、その結果を維持管理に反 映する計画か。	- 設定する定量目標と、緑地の効果の持続可能性を担保するためのその他の取組に対する、モニタリングの具体的な内容・方法・頻度・体制等が示されている。	_	情報開示	43	必須				- 事業内容や緑地に関する情報公開を行っている、または行う予定がある。			
ス 評			M-4	必須	- 実施体制の明確化	比実施体制及び責任者が明確である計画か。	- 実施体制及び責任者が明確である。 以下の緑地の専門家・技術者の関与がある。	_	地域住民等とのミュニケーション	, 44	必須	\$2.E	ケーション	か。	必要に応じて緑地整備・維持管理計画に反映する。			
価			M-5	必須	- 専門家の関与	緑地の専門家や技術者が関与している計画か。	以下の株地の場下が、実施者の調子がある。 ・計画等体の段階から、操地に関する資格を有する専門家による定期的な助言等を受けている。 ・緑地の整備や維持管理において、資格を有する遠園技術者が適正に確保されている体制となっている。		ネガティブ・イン/ クトの管理	45	必須	_ クト	トの管理	パクトを特定し、適切な対応措置を行う計画か。	緑地の存在やその整備・維持管理によって生じる可能性のあるその他ネガティブ・インパクトを予め特定し、- れに対する適切な対応措置が示されている。			
	マネジメント・ガバ ナンス	適切な事業の実 施	M-6	必須	- 資金の確保	整備・維持管理等に必要な資金を確保する仕組みがある計画か。	- 緑地の整備・維持管理費とその資金の調達方法が適切に考慮されている。	_	土地·地域特性		必須		環境・歴史文 把握・反映	土地の成り立ちを把握し、それを反映している計画か。	土地及び周辺地域の成り立ち(地形や歴史)を把握した上で、整備計画及び維持管理・運営計画等に反映してしる。			
			M-7	必須	- 法令遵守	法的位置づけを遵守している計画か。	- 緑地の整備・維持管理にあたり準拠しなくではならない条例を含む法令を把握し、それらを遵守しているか。	_	146 46441413	47	必須				工地及ひ周辺地域の任業的状況(人口、施武、父道、防災・減災、工地利用状況、開発状況、信域経済等)及 ・地域特有の社会課題などについて、資料や調査等を基に把握した上で、整備計画及び維持管理・運営計画等計 に反映している。			
			M-8		- バリアフリー	緑地があらゆる人の利用に対応する計画か。	- 敷地内に含まれる緑地利用施設が、原則としてパリアフリーの基準に適合する。	土地・地域特性の		-	必須	- 5-2h9+	上面の抽場。	法的位置づけを遵守している計画か。	- 緑地の整備・維持管理にあたり準拠しなくてはならない条例を含む法令を把握し、それらを遵守しているか。			
		情報開示	M-9	必須	- 情報の開示 地域住民等とのコ	緑地に関する情報公開を行う計画か。 1 地域住民等とのコミュニケーションを反映している計画	<ul> <li>事業内容や緑地に関する情報公開を行っている、または行う予定がある。</li> <li>事業の構想段階や維持管理・運営段階において、地域住民等とコミュニケーションを図る場を設け、その内容を</li> </ul>	把握∙反映	法令·行政計画		必須	_ 134X81	反映		■ 秋の壁や計画等の関連する行政計画や地域は式等により下放されたようプトッ計画等を拒接し、てれらを始また計画となっている。			
		地域住民等とのコミュニケーション	M-10	必須	- ミュニケーション	か。	必要に応じて緑地整備・維持管理計画に反映する。	_		50	必須	- 適切な	課題の設定	る計画か。	- 当該土地・地域特性を踏まえた課題が設定され、これらの課題と整合性を持つ項目が選択されている。			
		ネガティブ・イン/ クトの管理	<sup>₹</sup> M-11	必須	- ネガティブ・インバ クトの管理	は 事業によって生じる可能性のあるその他ネガティブ・インパクトを特定し、適切な対応措置を行う計画か。	<ul><li>一級地の存在やその整備・維持管理によって生じる可能性のあるその他ネガティブ・インパクトを予め特定し、それに対する適切な対応措置が示されている。</li></ul>											
	領域	カテゴリ	No	必須選 択	地 評価項目 枠	新評価指標(案)	配点 新評価基準(素)	領域	カテゴリ	No	必須選択	域解	価項目	旧評価指標(案)	旧評価基準(案)			
		温室効果ガス吸	C-1	必須	_ 緑地による温室効 果ガスの吸収	t CO2の吸収源としての緑地の創出・管理を行う計画か。	0     CO2吸収量/ 敷地面積=0.2 kg-CO2/m2 未満       1     CO2吸収量・敷地面積=0.2 kg-CO2/m2 以上 0.4 kg-CO2/m2 未満       3     CO2吸収量・敷地面積=0.4 kg-CO2/m2 以上 0.6 kg-CO2/m2 未満       5     CO2吸収量・敷地面積=0.6 kg-CO2/m2 以上	-	温室効果ガス明	1	必須		こよる温室効 「スの吸収	CO2の吸収源としての緑地の創出・管理を行う計画か。	1     CO2吸収量/敷地面積=0.2 kg-CO2/m2 以上 0.4 kg-CO2/m2 未滿       3     CO2吸収量/敷地面積=0.4 kg-CO2/m2 以上 0.6 kg-CO2/m2 未滿       5     CO2吸収量/敷地面積=0.6 kg-CO2/m2 以上			
		収・固定	C-2	選択	_ 木材利用による炭 素貯蔵	t 炭素貯蔵に資する木材利用を行う計画か。	0     木材を利用する計画はない。       1     炭末貯蔵量(CO2換算)/ 敷地面積=0.05 kg-CO2/m2未満       3     炭末貯蔵量(CO2換算)/ 敷地面積=0.05 kg-CO2/m2 以上 0.10 kg-CO2/m2 未満       5     炭末貯蔵量(CO2換算)/ 敷地面積=0.10 kg-CO2/m2以上	-	収・固定	2	選択		川用による炭 素貯蔵	炭素貯蔵に資する木材利用を行う計画か。	3 木材を利用する計画はない。       1 炭素貯蔵量(CO2換算)/敷地面積=0.05 kg-CO2/m2未満       3 炭素貯蔵量(CO2換算)/敷地面積=0.05 kg-CO2/m2 以上 0.10 kg-CO2/m2 未満       5 炭素貯蔵量(CO2換算)/敷地面積=0.10 kg-CO2/m2以上			
		温室効果ガス排出削減	C-3	選択	ライフサイクルを選 - じた温室効果ガス の把握・削減	事業全体のライフサイクルを通じた温室効果ガスの排出     量の削減に向けた計画か。	0 温室効果ガスの排出量を把握しておらず、削減目標が設定されていない。		温室効果ガス技出削減	3	選択	- じた温:	サイクルを通  室効果ガス   握・削減		資材製造・流通・施工・維持・運用・解体のいずれかの段階における温室効果ガスの排出量が把握されている。			
			C-4	選択	建築物の緑化によ - る温室効果ガスの 排出削減		0 建築物のエネルギー使用量の削減に貢献する屋上・壁面緑化面積/建築面積= 10%未満 建築物のエネルギー使用量の削減に貢献する屋上・壁面緑化面積/建築面積= 10%以上 20%未満 建築物のエネルギー使用量の削減に貢献する屋上・壁面緑化面積/建築面積= 20%以上 30%未満 5 建築物のエネルギー使用量の削減に貢献する屋上・壁面緑化面積/建築面積= 30%以上 5 と地震に対しままで終める。20%とは、20%と20%とは、20%とは	- - - -		4	選択	- る温室	の緑化によ 効果ガスの 出削減	日から日報と対して、その内容を認まえ造物の整備・植特管理等の実施計画があるが出かった。 「の関係と、製造物の専門家と投資者が関与している計画からの開発と関係と対して、その内容を認まえ造物の参加・機能を関するという。 「の関係と関係を対象して、これが関係である計画からの関係と関係を対象して、これが関係を対象との関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象して、これが関係との関係と対象を対象して、これが関係との関係と対象を対象して、これが関係との関係と対象を対象して、これが関係を対象して、これが関係を対象と対象に対象を対象を対象して、これが関係を対象と対象に対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	接築物のエネルギー使用量の削減に買載する屋上・壁面線化面積/建築面積= 10%未満			
			C-5	選択	- 地表面温度の抑制	熱環境対策として地表面温度に配慮した取組を行う計画か。	<ul> <li>○ 緑地等により地表面温度の抑制が図られる面積/日射により高温化が想定される地表面の面積= 20%未満</li> <li>1 緑地等により地表面温度の抑制が図られる面積/日射により高温化が想定される地表面の面積= 20%以上 40%未満</li> <li>3 緑地等により地表面温度の抑制が図られる面積/日射により高温化が想定される地表面の面積= 40%以上 60%未満</li> <li>5 緑地等により地表面温度の抑制が図られる面積/日射により高温化が想定される地表面の面積= 60%以上</li> <li>0 風の道に配慮した取転がない。</li> </ul>	- - -		5	選択	- 地表面	### 157 (1871) に、たいかけできるか、生物の主ない。   ### 257 (1871) に、たいかけできるか、生物の主ない。   ### 257 (1871) に、たいかけできるか、生物の主ない。   ### 257 (1871) に、たいかけできるか、生物の変数を対しているが重か、     日本の場合の関係である。     日本の場合の関係である。     日本の場合の関係である。     日本の場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本のの場合の関係である。     日本の場合の関係である。     日本の場合の対合の関係である。     日本の場合の対合の関係である。     日本の場合の対合の関係である。     日本の場合の対合の関係である。     日本の場合の対合の関係である。     日本の場合の対合の対合の対合の関係である。     日本の場合の対合の関係である。     日本の場合の対合の対合の対合の対合の対合の対合の対合の対合の対合の対合の対合の対合の対合	1 穀地等により地表面温度の抑制が図られる面積/日射により高温化が想定される地表面の面積= 20%以上 40%未 3 穀地等により地表面温度の抑制が図られる面積/日射により高温化が想定される地表面の面積= 40%以上 60%未 5 穀地等により地表面温度の抑制が図られる面積/日射により高温化が想定される地表面の面積= 60%以上				
コ ア 評	気候変動対策	暑熱対策	C-6	選択	○ 風の道の形成	熱環境対策として風の道に配慮した取組を行う計画か。	■ 風環境のシミュレーション等による予測・評価結果を踏まえ、風の道に配慮した取組が1つある。  3 風環境のシミュレーション等による予測・評価結果を踏まえ、風の道に配慮した取組が2つ以上ある。  3 風環境のシミュレーション等による予測・評価結果を踏まえ、風の道に配慮した取組が2つ以上ある。  4 経路の形成によって日陰となる面積 / 歩行者空間 のうち日射が直達する地表面等の面積= 20未満	気候変動対策	暑熱対策	6	選択	〇 風の	道の形成	熱環境対策として風の道に配慮した取組を行う計画か。				
価			C-7	選択	O 緑陰による熱中症 対策	整中症対策として効果的な緑地等の配置とする計画か。	1 緑陰の形成によって日陰となる面積/歩行者空間のうち日射が直達する地表面等の面積 20%以上 40%未満 3 緑陰の形成によって日陰となる面積/歩行者空間のうち日射が直達する地表面等の面積 40%以上 60%未満 5 緑陰の形成によって日陰となる面積/歩行者空間のうち日射が直達する地表面等の面積 60%以上			7	選択	_ 緑陰に	よる熱中症 対策					
		浸水被害対策	C-8	必須	- 雨水の貯留浸透	雨水の貯留浸透(流出抑制)に貢献する取組を行う計画 か。	る。 3 敷地の平均貯留浸透量=0.02 m3/m2以上 0.03 m3/m2未満		浸水被害対策	8	選択	O 雨水の	の貯留浸透	雨水の貯留浸透(流出抑制)に貢献する取組を行う計画 か。	1 敷地の平均浸透能=10mm/hr以上 20mm/hr未満 3 敷地の平均浸透能=20mm/hr以上 30mm/hr未満			
			C-9	必須	- 水使用量の削減	雨水の利用や節水等、水使用量を削減する計画か。	5 数地の平均貯留浸透量 - 0.03 m3/m2以上  0 総地への雨水の利用を計画していない。  1 上水を含めた日常的な潅水があり、緑地への雨水の利用または節水に関する取組を1つ計画している。  2 上水を含めた日常的な潅水があり、緑地への雨水の利用または節水に関する取組を2つ計画している。  3 上水を含めた日常的な潅水があり、緑地への雨水の利用または節水に関する取組を2つ計画している。  4 上水を含めた日常的な潅水があらが、降雨時には灌水をしないといった特別をしている。			9	選択	- 再生	材の使用	再生材を使用する計画か。	再生材を利用する計画がない。     再生材を1品目利用する計画がある。     再生材を2品目利用する計画がある。     再生材を3品目以上利用する計画がある。      英雄の有効利用に関する取組がない。			
		資源循環	C-10	選択	- 再生材の使用	再生材を使用する計画か。	5		資源循環	10	必須	- 資源σ	の有効活用	資源を有効利用する計画か。	3 資源の有効利用に関する取組が2つ以上ある。			
			C-11	必須	- 資源の有効活用	資源を有効利用する計画か。	0 資源の有効利用に関する取組がない。 1 費源の有効利用に関する取組がつある。 3 費源の有効利用に関する取組がつつめる。 5 資源の有効利用に関する取組がつつ以上ある。 5 資源の有効利用に関する取組がつ以上ある。											

領域	カテゴリ	No 必須進 択	地域枠	評価項目	新評価指標(案)	配点 新評価基準(案)	領域	カテゴリ	No	必須選択	地域科	平価項目	旧評価指標(案)	配点 旧評価基準(案)
			-	-	-	-			11	必須	- 水使	使用量の削減	雨水の利用や節水等、水使用量を削減する計画か。	0 緑地への雨水の利用を計画していない。 1 緑地への雨水の利用または節水に関する取組を1つ計画している。 2 緑地への雨水の利用または節水に関する取組を2つ計画している。 3 緑地への雨水の利用または節水に関する取組を3つ以上計画している。 4 小パスの取組を行い、かつ緑地雨水再利用率が50%以上 5 レベルスの取組を行い、かつ緑地雨水再利用率が50%以上
	多様な生息・生育 環境の確保	В−1 選択	0	まとまりのある緑 地の確保	一定規模以上でまとまりのある緑地が確保される計画 か。	まとまった緑地の面積が800㎡未満又は、まとまった緑地の面積が800㎡以上で短辺10m未満     まとまった緑地の面積が800㎡以上で短辺10m以上     まとまった緑地の像地面積が2,000㎡以上で短辺10m以上     まとまった緑地の像地面積が2,000㎡以上で短辺20m以上     まとまった緑地の緑地面積が5,000㎡以上で短辺20m以上     まとまった緑地の緑地面積が10,000㎡以上で短辺20m以上     まとまった緑地の緑地面積が10,000㎡以上で短辺30m以上			12	選択		まりのある緑 地の確保	一定規模以上でまとまりのある緑地が確保される計画 か。	0 まとまった緑地の面積が800㎡未満又は、まとまった緑地の面積が800㎡以上で短辺10m未満 1 まとまった緑地の面積が800㎡以上で短辺10m以上 2 まとまった緑地の緑地面積が2,000㎡以上で短辺10m以上 3 まとまった緑地の緑地面積が3,000㎡以上で短辺20m以上 4 まとまった緑地の緑地面積が5,000㎡以上で短辺20m以上 5 まとまった緑地の緑地面積が10,000㎡以上で短辺30m以上
						0 レベル1に満たない。 以下全てを満たす緑地がある。 - 高木磨が砂混が連続する面積が10m×10mの正方形より小さいが、緑地の面積10m×10mの正方形の中に、高木層が 1 ある。 - その下に低木層また草本層のいずれかの層がある。 - 各層に複数の樹種がある。								0 レベル1に満たない。 以下全てを満たす緑地がある。 - 高木層の概式が連続する面積が10m×10mの正方形より小さいが、緑地の面積10m×10mの正方形の中に、高木層がある。 - 高木層が表さる。 - その下に低木層また草本層のいずれかの層がある。 - 各層に複数の樹種がある。
						以下全てを満たす機地がある。 - 高木層の横冠が連続する面積が10m×10mの正方形より大きい。 - その下に低木層また車本層のどちらか1層がある。 - 各層に複数の横種がある。			育 13 必					以下全てを満たす機地がある。 - 高未層の樹冠が連続する面積が10m×10mの正方形より大きい。 - その下に低木層また単本層のどちらか1層がある。 - 各層に複数の樹種がある。
		F B-2 必須	-	階層構造の形成	緑地等が階層構造を形成する計画か。	以下全てを選たす緑地がある。 3 3 3 3 3 3 3 6 6 6 6 6 7 8 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9		多様な生息・生育 環境の確保		必須	- 階層	<b>香構造の形成</b>	成 緑地等が階層構造を形成する計画か。	以下全てを選たす緑地がある。 3 高末層の樹冠が連続する面積が10m×10mの正方形より大きい。 -その下には木房と草本原の2層がある。 -各層に複数の樹種がある。
						以下全てを選广す緑地がある。 - 富木層の樹冠が連続する面積が20m×20mの正方形より大きい。 - その下には木層また車本層のどちらか1層がある。 - 各層に複数の樹種がある。								以下全てを満たす緑地がある。 - 高木層の樹冠が連接する面積が20m×20mの正方形より大きい。 - その下にに朱層まで重求層のどちらか1層がある。 - 各層に複数の樹種がある。
						以下全てを選广す緑地がある。 - 富木層の樹窓が連載する面積が20m×20mの正方形より大きい。 - その下には木房、草本層の2層がある。 - 各層に複数の樹種がある。								以下全てを満たす緑地がある。 - 富木層の樹設が連載する面積が20m×20mの正方形より大きい。 - その下に住木房 東本原の2層がある。 - 各層に複数の樹種がある。
						樹林地、草地(芝地を除く)、水辺地のうち単一のハビタットタイプが存在するのみである、もしくは、複数のハビタットタイプがあるが、生き物が行き来できる状態で隣接していない。							成 樹林地、草地、水辺地において、エコトーンを形成する計画か。	0 樹林地、草地(芝地を除く)、水辺地のうち単一のハビタットタイプが存在するのみである、もしくは、複数のハビタットターがあるが、生き物が行き来できる状態で隣接していない。
		B-3 選択	-	エコトーンの形成	樹林地、草地、水辺地において、エコトーンを形成する計 画か。	<ul> <li>樹林地、草地(芝地を除く)、水辺地のうち2つのハビタットタイプが、生き物が行き来できる状態で隣接して存在する。</li> <li>連続的に変化する環境の移行帯を伴って、樹林地、草地(芝地を除く)、水辺地のうち2つのハビタットタイプが、生き物が行き来できる状態で隣接して存在する。</li> </ul>			14	選択	- 13	トーンの形成		<ul> <li>樹林地、草地(芝地を除く)、水辺地のうち2つのハビタットタイプが、生き物が行き来できる状態で隣接して存在する。</li> <li>連続的に変化する環境の移行帯を伴って、樹林地、草地 (芝地を除く)、水辺地のうち2つのハビタットタイが、生き物が行き来できる状態で隣接して存在する。</li> </ul>
						<ul> <li>3 連続的に変化する環境の移行帯を伴って、樹林地、草地(芝地を除く)、水辺地の各ハビタットタイプが一連でそろっており、生き物が行き来できる状態で開接して存在する。</li> <li>0 良好な生息・生育環境形成に資する取組がない、又は1つの取組に限られる。</li> </ul>								5 連続的に変化する環境の移行帯を伴って、根林地、草地(芝地を除く)、水辺地の各ハビタットタイプがそろており、生き物が行き来できる状態で隣接して存在する。 0 別表の取組がない、又は1つの取組に限られる。
生物多様性の確 保(自然資本の		B-4 選択	-	良好な生息・生育 環境形成に資する 取組	動植物の生息・生育環境を形成する取組を行う計画か。	良好な生息・生育環境形成に資する取組がとつ以上ある。     良好な生息・生育環境形成に資する取組がとつ以上ある。     良好な生息・生育環境形成に資する取組が合つ以上ある。     良好な生息・生育環境形成に資する取組が合つ以上ある。	・ 生物多様性の確 保(自然資本の	E	15	選択		な生息・生育 形成に資する 取組	動植物の生息・生育環境を形成する取組を行う計画か。	別表の取組が2つ以上ある。     別表の取組が4つ以上ある。     別表の取組が4つ以上ある。     別表の取組が6つ以上ある。
保全•回復)	周辺環境との調和			地域に根差した植		まとまった緑地もしくは緑地全体を構成する樹木及び草本の30%未満が在来種(外国産在来種は除く)である。 1 まとまった緑地もしくは緑地全体を構成する樹木及び草本の30%以上50%未満が在来種(外国産在来種は除く)である。	保全•回復)				44-4-4-	に根差した植		0 まとまった緑地もしくは緑地全体を構成する樹木及び草本の30%未満が在来種(外国産在来種は除く)である。 1 まとまった緑地もしくは緑地全体を構成する樹木及び草本の30%以上50%未満が在来種(外国産在来種は除く)である。
		B-5 必須	-	生の保全・創出	地域に根差した植生の保全・創出を行う計画か。	3 まとまった緑地もしくは緑地全体を構成する樹木及び草本の50%以上が在来種(外国産在来種は除く)である。 5 まとまった緑地もしくは緑地全体を構成する樹木及び草本の50%以上が地域性種苗である。			16	必須	生の	の保全・創出	地域に根差した植生の保全・創出を行う計画か。	3 まとまった緑地もしくは緑地全体を構成する樹木及び草本の50%以上が在来種(外国産在来種は除く)である
					生態系ネットワーク形成に資する緑地とする計画か。	<ul> <li>まこまづいておいましている味を出まれて情報が、も思れないチャルリのいは上が地域は住田である。</li> <li>対象線地の存在による生態系ネットワーク状況の指標値が増加しない、かつ、地方公共団体が策定する地域の生態系ネットワークの形成に関する計画に沿っていない。</li> </ul>								5 まとまった緑地もしくは緑地全体を構成する樹木及び草本の50%以上が地域性種苗である。 の対象緑地の存在による生態系ネットワーク状況の指標値が増加しない、かつ、地方公共団体が策定する地域の生態 ネットワークの形成に関する計画に沿っていない。
						対象緑地の存在による生態系ネットワーク状況の指標値の増加が0.5ポイント未満である。 1 または、指標値が増加しないが、地方公共団体が策定する地域の生態系ネットワークの形成に関する計画に沿っている。		周辺環境との調和					ネットワーク の形成 生態系ネットワーク形成に資する緑地とする計画か。	対象緑地の存在による生態系ネットワーク状況の指標値の増加が0.5ポイント未満である。 1 または、指標値が増加しないが、地方公共団体が策定する地域の生態系ネットワークの形成に関する計画に沿ってしる。
		B-6 選択	6 0 E	生態系ネットワーク の形成		対象緑地の存在による生態系ネットワーク状況の指標値の増加が0.5ポイント以上である。 3 または、指標値の増加が0.5ポイント未満だが、地方公共団体が策定する地域の生態系ネットワークの形成に関する計画 に沿っている。			17	選択		系ネットワーク の形成		対象緑地の存在による生態系ネットワーク状況の指標値の増加が0.5ポイント以上である。 3 または、指標値の増加が0.5ポイント未満だが、地方公共団体が策定する地域の生態系ネットワークの形成に関 る計画に沿っている。
						5 対象緑地の存在による生態系ネットワーク状況の指標値の増加が0.5ポイント以上、かつ、地方公共団体が策定する地域の生態系ネットワークの形成に関する計画に沿っている。								5 対象緑地の存在による生態系ネットワーク状況の指標値の増加が0.5ポイント以上、かつ、地方公共団体が策立 る地域の生態系ネットワークの形成に関する計画に沿っている。
				外来種の侵入防		注意すべき外来種を使用する計画となっている。     注意すべき外来種について外来種肪除マニュアル、侵入防止マニュアルがない。     (レベル設定なし)					从本	<b>そ種の侵入防</b>		注意すべき外来種を使用する計画となっている。     注意すべき外来種について外来種肪除マニュアル、侵入防止マニュアルがない。     【 (レベル設定なし)
		B-7 必須	頁 -	止·防除		3 注意すべき外来種について定期的な確認・監視を行う外来種防除マニュアルがあり、防除対策における実施体制がある。			18	必須	_   // //	止·防除	外来種の侵入防止・防除を実施する計画か。	3 注意すべき外来種について外来種肪除マニュアルがあり、防除対策における実施体制がある。
						注意すべき外来種について定期的な確認・監視を行う侵入防止マニュアルがあり、侵入防止における実施体制がある。   化学農業・化学肥料について、使用に関するルールや計画がない。								5 注意すべき外来種について侵入防止マニュアルがあり、侵入防止における実施体制がある。 0 化学農薬・化学肥料について、使用に関するルールや計画がない。
	生態系への影響の低減	B-8 必須	-	化学農薬・化学肥 料の使用量削減	化学農業・化学肥料の制限・適正管理を行う計画か。	1 化学農業・化学肥料の使用にあたってルールを定めて使用する計画になっている。  3 レベルコに加え、化学農業・化学肥料について、使用の抑制に関するルールを定め、管理場所での病害虫の発生状況を確認したこで防除の要う。適切な防除のタイミングや防除力法を判断する計画になっている。  5 レベルコに加え、有機肥料の活用や機械除草の活用など総合防除の考え方に基づいた防除を行い、化学農業・化学肥料		生態系への影響	19	必須		:農薬・化学肥 )使用量削減		1 化学農薬・化学肥料の使用にあたってルールを定めて使用する計画になっている。  いペル1に加え、化学農薬・化学肥料について、使用の抑制に関するルールを定め、管理場所での病害虫の発生状況 確認した上で防除の要否。適切な防除のタイニグや防除方法を判断する計画になっている。  いペル3に加え、有機肥料の活用や機械除車の活用など総合防除の考え方に基づいた防除を行い、化学農薬・化学)を抑制する緑地管理を実施する計画になっている。
		B-9 必須	-	プラスチック等化学 物質の適正管理	プラスチックなど化学物質が含まれる資材の適正管理を 行う計画か。	<ul> <li>を抑制する総地管理を実施する計画になっている。</li> <li>プラスチックなど化学物質の使用状況を把握していない、行動指針等がない。</li> <li>プラスチックなど化学物質が含まれる資材の使用状況を把握している。</li> <li>プラスチックなど化学物質が含まれる資材の使用状況を把握し、行動指針等がある。</li> <li>プラスチックなど化学物質が含まれる資材の使用状況を把握し、行動指針等において使用制限に向けた変量目標があった。</li> </ul>		の低減	20	必須		スチック等化学 この適正管理	プラスチックなど化学物質が含まれる資材の適正管理を 行う計画か。	を付めりの場合性主催と先駆りの使用状況を把握していない、行動指針等がない。  1 プラスチックなど化学物質の使用状況を把握していない、行動指針等がない。  1 プラスチックなど化学物質が含まれる資材の使用状況を把握している。  3 プラスチックなど化学物質が含まれる資材の使用状況を把握し、行動指針等がある。  5 プラスチックなど化学物質が含まれる資材の使用状況を把握し、行動指針等がある。
		B-10 必須	-	生物多様性に配慮した資材の調達	生物多様性や持続可能性に配慮した資材調達に向けた 取組を行う計画か。	る。     し			21	必須		多様性に配慮 :資材の調達	生物多様性や持続可能性に配慮した資材調達に向けた 取組を行う計画か。	
	環境教育	B-11 選択	-	環境教育の実施	生物多様性の理解と行動変容につながる環境教育を行 う計画か。			環境教育	22	選択	- 環境	き教育の実施	生物多様性の理解と行動変容につながる環境教育を行 う計画か。	し
					\B1 ⊑1N.º	* がある。 5 地域住民や一般参加者など幅広い対象に、敷地を活用した環境教育プログラムを定期的に実施する計画がある。							Zn: □ U° o	る計画がある。     地域住民や一般参加者など幅広い対象に、敷地を活用した環境教育プログラムを定期的に実施する計画がある

	領域	カテゴリ	No 必須選	地 評価項目	新評価指標(案)	配点新評価基準(案)	領域	カテゴリ	No 🛍	須選 地	性 対 評価項目	旧評価指標(案)	配点 旧評価基準(案)
		開かれた空間の 形成				0 従業員、住民等の敷地関係者が緑地を利用することができる機会がない。							0 従業員、住民等の敷地関係者が緑地を利用することができる機会がない。
						1 従業員、住民等の敷地関係者のみが緑地を利用することができる機会がある。							1 従業員、住民等の敷地関係者のみが緑地を利用することができる機会がある。
						2 敷地関係者以外の誰でも事前登録を行えば緑地を利用することができる機会がある。							2 敷地関係者以外の誰でも事前登録を行えば緑地を利用することができる機会がある。
			W-1 必須	- 公開性の確保	公開性を有する計画か。	3 敷地関係者以外の誰でも事前登録なく緑地を利用することができる機会がある(1日当たり3時間以上利用できる日が年間150日未満の場合)。		開かれた空間の形成	23 1	必須 -	- 公開性の確保	小朋性た方才る計画か	3 敷地関係者以外の誰でも事前登録なく緑地を利用することができる機会がある(1日当たり3時間以上利用できる日が年間150日未満の場合)。
			W 1 2038	A 所 正 の i 産 体	Amirch y Galen.	数地関係者以外の能でも事前登録なく緑地を利用することができる機会が、1日当たり3時間以上かつ年間150日以 上ある (レベル5を除く)。 かつ公道から直接アクセスすることができ、緑地を通って、鼓地外へ通り抜けることができる。			25 9	O.A.	立例にの進入	公開性を有する計画か。	数地関係者以外の誰でも事前登録なく緑地を利用することができる機会が、1日当たり3時間以上かつ年間150日以上ある(レベル5を除く)。
	1					5 いつでも誰でも緑地を利用することができる。 かつ周辺地域から連続してみどりの中を歩くことができるネットワークが広がっている。							5 いつでも誰でも緑地を利用することができる。
						0 対応していない。							0 対応していない。
						1 敷地内または周辺に、緑地利用者が使用可能なパリアフリートイレが設置されている。		2					1 敷地内に含まれる緑地利用施設が、原則としてバリアフリーの基準に適合する。
			W-2 選択	_ ユニバーサルデザ イン	緑地があらゆる人の利用に対応する計画か。	3 レベルIに加えて、緑地で行われるブログラムやアクティビティにおいて、多様な人々が身障者や妊婦、子供達れ、外国人等も参加できるような、ユニバーサルデザインに配慮した取組を行う計画がある。			24 🕉	必須 -	ユニバーサルデザ イン	: 緑地があらゆる人の利用に対応する計画か。	3 レベルIIに加えて、緑地で行われるプログラムやアクティビティにおいて、多様な人々が身障者や妊婦、子供連れ、外国人等も参加できるような、ユニバーサルデザインに配慮した取組を行う計画がある。
						5 レベル3に加えて、多様な人々のニーズを、緑地の整備や、緑地で行われるブログラムやアクティビティに反映させてユニバーサルデザインに配慮した取組を行う計画がある。							5 レベル3に加えて、多様な人々のニーズを、緑地の整備や、緑地で行われるプログラムやアクティビティに反映させてユニバーサルデザインに配慮した取組を行う計画がある。
						0 事故や犯罪の危険がある緑地内の箇所を特定していない。							0 事故や犯罪の危険がある緑地内の箇所を特定していない。
						1 事故や犯罪の危険がある緑地内の箇所を特定し、何らかの対策を講じている。							1 事故や犯罪の危険がある緑地内の箇所を特定し、何らかの対策を講じている。
			W-3 必須	_ 防犯性・安全性の 向上	防犯面、利用面における安心・安全な空間とする計画 か。	3 夜間を含め、事故防止のための危険箇所への十分な対策及び防犯のための十分な監視性の確保がある。			25	必須 -	_ 防犯性・安全性の 向上	まの 防犯面、利用面における安心・安全な空間とする計画 か。	3 夜間を含め、事故防止のための危険箇所への十分な対策及び防犯のための十分な監視性の確保がある。
						5 レベル3に加えて年1回以上、事故・防犯上の危険箇所の見直しを行い、新たな課題が生じた場合に対策を施す計画がある。							5 レベル3に加えて年1回以上、事故・防犯上の危険箇所の見直しを行い、新たな課題が生じた場合に対策を施す計画がある。
					災害時の避難場所となる空間が確保される計画か。	0 地域住民等が一時的に避難できる空間がない。							0 地域住民等が一時的に避難できる空間がない。
						1 地域住民等が一時的に避難できる空間が用意されており、それを周知する計画がある。							1 地域住民等が一時的に避難できる空間が用意されており、それを周知する計画がある。
	3	安心・安全な空間 の形成	W-4 選択	- 避難場所の確保		レベルIに加えて、地域住民等が避難場所として利用できる面積が一人あたりImi以上2㎡未満あるまたは、公的な避難場所として指定(予定)されており、避難できる空間の面積が一人あたりImi以上2㎡未満ある。。または、帰宅困難者等の受入の協定を締結している(あるいは予定している)。		安心・安全な空間 の形成	26 à	選択 -	- 避難場所の確保	災害時の避難場所となる空間が確保される計画か。	レベルIに加えて、地域住民等が避難場所として利用できる面積が一人あたりImi以上2mi未満ある または、公約な避難場所として指定(予定)されており、避難できる空間の面積が一人あたりImi以上2mi未満あ る。 または、帰宅困難者等の受入の協定を締結している(あるいは予定している)。
						5 レベルIに加えて、地域住民等が避難場所として利用できる面積が一人あたり2㎡以上ある。 または、公的な避難場所として指定(予定)されており、避難できる空間の面積が一人あたり2㎡以上ある。							5 レベル川に加えて、地域住民等が避難場所として利用できる面積が一人あたり2㎡以上ある。 または、公的な避難場所として指定(予定)されており、避難できる空間の面積が一人あたり2㎡以上ある。
						0 緩衝線地による緩衝機能が認められない又は緩衝線地による緩衝距離が11m未満		-				色の確保 緩衝緑地が確保される計画か。	0 緩衝緑地による緩衝機能が認められない又は緩衝緑地による緩衝距離が11m未満
					緩衝緑地が確保される計画か。	1 緩衝緑地による緩衝距離が11m以上確保されている。							1 緩衝縁地による緩衝距離が11m以上確保されている。
			₩-5 選択	- 緩衝緑地の確保		3 緩衝線地による緩衝距離が「m以上確保されている。かつ、緩衝線地が樹木中心の構成である場合は、中水準の緩 衡機能を有した構成・樹種等になっている。			27	選択	- 緩衝緑地の確保		3 緩衝線地による緩衝距離が16m以上確保されている。かつ、緩衝線地が樹木中心の構成である場合は、中水準の緩 衝機能を有した構成・樹種等になっている。
						5 緩衝緑地による緩衝距離が24以上確保されている。かつ、緩衝緑地が樹木中心の構成である場合は、高水準の緩 衝機能を有した構成・樹種等になっている。							5 繊衝緑地による緩衝距離が2m以上確保されている。かつ、緩衝緑地が樹木中心の構成である場合は、高水準の経 衝機能を有した構成・樹種等になっている。
						0 緑地内、または、緑地を利用することができる空間に、遊歩道など歩行(身体活動)が可能な施設が、自由に利 用できる状態で配置されていない。	・Well-beingの向 上						0 緑地内、または、緑地を利用することができる空間に、遊歩道など歩行 (身体活動) が可能な施設が、自由に利 用できる状態で配置されていない。
						1 緑地内、または、緑地を利用することができる空間に、遊歩道など歩行(身体活動)が可能な施設が、自由に利用できる状態で配置される計画である。							1 緑地内、または、緑地を利用することができる空間に、遊歩道など歩行(身体活動)が可能な施設が、自由に利用できる状態で配置される計画である。
					身体的が健康の機准に済まる体証やプログラノがもる	2 緑地内、または、緑地を利用することができる空間に、芝生広場など運動利用も意図とした施設が、自由に利用できる状態で配置される計画である。						身体的か健康の慢進に済まる体証やプログラ / ギェス	2 緑地内、または、緑地を利用することができる空間に、芝生広場など運動利用も意図とした施設が、自由に利用 できる状態で配置される計画である。
			W-6 必須	- 身体的健康の増進	身体的な健康の増進に資する施設やプログラムがある 計画か。	3 レベル2に加えて、身体活動や運動利用が可能な空間を利用した運動プログラムを年1回以上の頻度で実施する計画である。			28	必須 -	- 身体的健康の増進	身体的な健康の増進に資する施設やプログラムがある 計画か。	3 レベル2に加えて、身体活動や運動利用が可能な空間を利用した運動プログラムを年1回以上の頻度で実施する計画である。
⊐ Wall	-baingの位					4 レベル2に加えて、身体活動や運動利用が可能な空間を利用した運動プログラムを月1回以上の頻度で実施する 計画である。							4 レベル2に加えて、身体活動や運動利用が可能な空間を利用した運動プログラムを月1回以上の頻度で実施する 計画である。
ア 評	-beingの向 上	心身の健康の増 進				5 レベル4に加えて、総地を利用することができる空間に、身体活動や運動利用が可能な施設が、自由に利用できる状態で配置されている、かつより多くの身体活動や運動利用を促す工夫が施される計画である。		心身の健康の増 進					5 レベル4に加えて、緑地を利用することができる空間に、身体活動や運動利用が可能な絶殻が、自由に利用できる状態で配置されている、かつより多くの身体活動や運動利用を促す工夫が施される計画である。

/		1 1.		_	1 緑地を活用し、人が滞在・交流するアクティビティが5つ以上ある。							1 緑地を活用し、人が滞在・交流するアクティビティが5つ以上ある。
	W-9 選		々の交流・滞在	人流を増やすためのアクティビティを想定した計画か。	。 緑地を活用し、人が滞在・交流するアクティビティが10個以上あり、うち3つ以上のアクティビティについて活動			31	選択 -	人々の交流・滞在		- 緑地を活用1 人が滞在・交流するアクティビティが10個以上あり、うち3つ以上のアクティビティについて活
/	VV 3 (251)	`	の促進	へ加さ名ですにののアファイとフィさ心だしにai iiii ii'。 -	を促すプログラムがある。			31	251/	の促進	大加を指ですためのアプライとアイを心足した計画が。	を促すプログラムがある。
にぎわいの創出					5 緑地を活用し、人が滞在・交流するアクティビティが20個以上あり、うち10個以上のアクティビティで活動を促すプログラムがある。		にぎわいの創出					5 緑地を活用し、人が滞在・交流するアクティビティが20個以上あり、うち10個以上のアクティビティで活動をもすプログラムがある。
					-							0 公道から緑地に直接アクセスすることができない。
1				-						地域と連続した歩		1 公道から緑地に直接アクセスすることができる。
		-	-					32	選択 C	行可能な空間の刑	間の形地となる計画か。	3 公道から直接アクセスすることができ、緑地を通って、敷地外へ通り抜けることができる。
										成		
												5 周辺地域から連続してみどりの中を歩くことができるネットワークが広がっている。
				-	0 接道部の緑化率が50%未満							0 接道部の緑化率が50%未満
4			沿道緑化									
					1 接道部の緑化率が50%以上							1 接道部の緑化率が50%以上
<b>1</b>												
\					2 接道部緑化率が60%以上							2 接道部緑化率が60%以上
	W-10 選択	0 5		景観の向上に資する沿道緑化を行う計画か。	3 接道部緑化率が70%以上			33	選択 -	沿道緑化	周辺環境の向上に資する沿道緑化を行う計画か。	3 接道部緑化率が70%以上
	10 10 220	`   _	712	ACMOST TELESTON OF THE REAL PRINTERS				"	~~	70,224410	。 同辺環境の同土に負する石追称にを11 Jai 画か。	3 接追即稼化率かりが以上
					接道部緑化率が70%以上で、接道部に広場や園路、緑道等として開放される緑化エリアが存在し、景観の向上に資							4 接道部緑化率が80%以上
					する植栽の工夫が行われている。 - 接道部緑化率が80%以上で、接道部に広場や園路、緑道等として開放される緑化エリアが存在し、景観の向上に資		良好な景観の形 成					接道部緑化率が80%以上で、接道部の緑化が広場や園路、緑道等として開放され、道路と一体となって通行者
良好な景観の形成が							~					5 接近即球化学が80%以上で、接近即の球化が広場や圏路、線道等として開放され、道路と一体となって通行者 に親しむことができるようになっている。
良好な景観の形 成												0 デザインコンセプトが設定されていない。
良好な景観の形 成					する植栽の工夫が行われている。							
良好な景観の形 成					○ する種数の工夫が行われている。 ○ デザインコンセプトが設定されていない。							
良好な景観の形成		. F	ザインコンヤプト	デザインコンセプトが設定され、そのコンセプトに沿った	○ する種数の工夫が行われている。 ○ デザインコンセプトが設定されていない。					デザインコンセプト	│ -   デザインコンセプトが設定され、そのコンセプトに沿った	1 デザインコンセプトが設定され、デザインコンセプトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。
良好な景観の形成	W-11 選択	₹ - デ·		デザインコンセプトが設定され、そのコンセプトに沿った 取をトナアスを計画か	□ する種類の工夫が行われている。     □ デザインコンセプトが設定されていない。     □ デザインコンセプトが設定され、デザインコンセプトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。			34	選択 -		<ul><li>デザインコンセプトが設定され、そのコンセプトに沿った 歌針となる計画か</li></ul>	
良好な景観の形 成	W-11 選折	₹ - デ	ザインコンセプト の設定	デザインコンセプトが設定され、そのコンセプトに沿った 設計となる計画か。	○ する種数の工夫が行われている。 ○ デザインコンセプトが設定されていない。			34	選択 -	デザインコンセプト の設定	<ul><li>デザインコンセプトが設定され、そのコンセプトに沿った 設計となる計画か。</li></ul>	1 デザインコンセプトが設定され、デザインコンセプトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。 3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。
良好な景観の形成	W-11 選択	₹ - デ·			o する種類の工夫が行われている。 O デザインコンセブトが設定されていない。 I デザインコンセブトが設定され、デザインコンセブトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。 Fザインコンセブトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。			34	選択 -			3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。
良好な景観の形 成	W-11 選折	₹ - <sup>デ</sup>			3         する機能の工夫が行われている。           0         デザインコンセブトが設定されていない。           1         デザインコンセブトが設定され、デザインコンセプトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。           3         デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。           5         レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。			34	選択 -			3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。 5 レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。
良好な景観の形成	W-11 選折	₹ - デ·			o する種類の工夫が行われている。 O デザインコンセブトが設定されていない。 I デザインコンセブトが設定され、デザインコンセブトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。 Fザインコンセブトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。			34	選択 -			3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。
良好な景観の形成	W-11 選折	₹ - ₹			する最後の工夫が行われている。     デザインコンセブトが設定されていない。     デザインコンセブトが設定され、デザインコンセブトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。     デザインコンセブトに基づいた植装計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。     レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。     農園がない。			34	選択 -			3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。 5 レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。 6 農園がない。
良好な景観の形成	W-11 選折	₹ - テ			3         する機能の工夫が行われている。           0         デザインコンセブトが設定されていない。           1         デザインコンセブトが設定され、デザインコンセプトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。           3         デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。           5         レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。			34	選択 -			3 デザインコンセプトに基づいた植裁計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。 5 レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。
良好な景観の形成		-	の設定	設計となる計画か。	する機能の工夫が行われている。     ボザインコンセブトが設定されていない。     ボザインコンセブトが設定され、デザインコンセブトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。     ボザインコンセブトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。     レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。     農圏がない。     供業員等の限定された者が利用できる農圏がある。		<b>農の活用</b>			の設定	設計となる計画か。	3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。 5 レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。 0 農園がない。 1 従業員等の限定された者が利用できる農園がある。
成	W-11 選択 W-12 選択	-			する最後の工夫が行われている。     デザインコンセブトが設定されていない。     デザインコンセブトが設定され、デザインコンセブトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。     デザインコンセブトに基づいた植装計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。     レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。     農園がない。		農の活用		選択 -			3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。 5 レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。 0 農園がない。 1 従業員等の限定された者が利用できる農園がある。
成		-	の設定	設計となる計画か。	する機能の工夫が行われている。     ボザインコンセブトが設定されていない。     ボザインコンセブトが設定され、デザインコンセブトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。     ボザインコンセブトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。     レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。     農圏がない。     供業員等の限定された者が利用できる農圏がある。		農の活用			の設定	設計となる計画か。	3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。 5 レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。 0 農園がない。 1 従業員等の限定された者が利用できる農園がある。
成		-	の設定	設計となる計画か。	する機能の工夫が行われている。     ボザインコンセブトが設定されていない。     ボザインコンセブトが設定され、デザインコンセブトに基づいた緑地の配置計画が作成されている。     ボザインコンセブトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。     レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。     農圏がない。     供業員等の限定された者が利用できる農圏がある。		農の活用			の設定	設計となる計画か。	3 デザインコンセプトに基づいた植栽計画および構造物に関する色彩や素材の計画がある。 5 レベル3に加えて、将来の緑地景観の成熟イメージが明確に示されている。 6 農園がない。